

20170702 「世界のはじまり」

目標：。天地創造のあらましを聞き、そこに込められている聖書の神の有り様（全てを造り、その上に君臨する、言と業にずれのない方が、人間を創造の冠とした）を掴む。

聖書箇所：創世記1：1-2：3 時間：10分

暗誦聖句：「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記1：1）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 未就園児×2

留意点：教会のメッセージなので、聖書に集中することを常に意識する。古代中近東神話や日本国憲法などはどんなに立派な内容でも聖書ではないので、扱う際には十分気をつける。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	今日からしばらく、旧約聖書のお話をしていきたいと思います。		子どもたちは数年前に一度旧約聖書を学んでいるが、どれくらい覚えているかは不明である。小さい子どもたちのためにも、初めて学ぶ意識を教師も保ちたい。 創世記1：1と一緒に読む。
課題探究	6分	暗唱聖句を詠んでみましょう。 この御言には、本当に多くの意味が込められていると言われていました。 聖書に沿って、天地創造の次第を見ていきましょう。 何か気づいたことはありますか。 神様は、何もない所からこの世界を造られたのです。 造られたものより造ったの方が上なのは、よくわかると思います。 神様は、創造の御業を全て言で成し遂げられました。 人間が最後に創造されたのは、創造の冠として、この世界の一番上に置くためと言われます。 神様が7日目に休まれたというのは、もう何も付け加えるモノがないという意味です。 ある学者さんは、ここには、この世界が、どうやって出来たかではなく、どういう意味を込めて造られたのか、作り方ではなく、意味が記されていると行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・上の水って何？ ・太陽より光が先なのはなぜ？ ・なぜ人間が最後なの？ ・神様が休むってどういうこと？ 	子どもたちに聖書から挙げさせて、1日目から7日目まで一覧にする。 前項の後、時間に余裕があればこの項を設ける。いろいろ思うまま挙げさせて、答えるだけ答えてやりたい。解らないこともあるだろうが、学者はある一定の回答をしてきている。教師の学ぶ動機付けと位置づけても良いだろう。 目標からの反映。適用として、希望の見えない所にも、希望を造り出すことが出来る事に触れる。 目標からの反映。適用として、私達も含め神様のお作りにならなかったモノはないことに触れる。 目標からの反映。適用として、言行一致の素晴らしさに触れる。 目標からの反映。適用として、私達お互いは、神様の目には本当に素晴らしい存在である事に触れる。
まとめ	2分	神様は、この世界を、私達が素晴らしい生きたかを出来るように、整えて下さいました。まず、このことを感謝していきたいものです。 暗誦聖句		いわゆる科学的アプローチに対応する項。キルケゴールの言の引用である。時間に余裕があれば、触れた方が良いと思われる。 190号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。 天地創造は、私達に対する神様の基本的姿勢が頭れている箇所であり、聖書全体を貫く基礎が描かれているのである。まず感謝がわき出るような、締めくくりを心がけたい。